

Ⅱ 岐南町人口ビジョン

第 1 章 人口ビジョンの概要

1. 人口ビジョンとは

「岐南町人口ビジョン」は、本町における人口動向等の分析を行いながら、今後のめざすべき将来の方向と、人口の将来展望を示すものです。

国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」において、令和 42（2060）年に 1 億人程度の人口を確保する方向性を示していることから、「岐南町人口ビジョン」においても令和 42（2060）年の目標人口を設定します。

また、同時に策定する本戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策を企画立案するうえでの基礎となるものと位置づけ、整合性を図ることとします。

2. 人口ビジョンの構成

「岐南町人口ビジョン」は、本町の人口動向の現状を示した「人口の現状分析」と、今後のめざすべき将来の方向と人口の将来展望を示す「人口の将来展望」から構成します。

第2章 人口の現状分析

1. 人口・世帯の状況

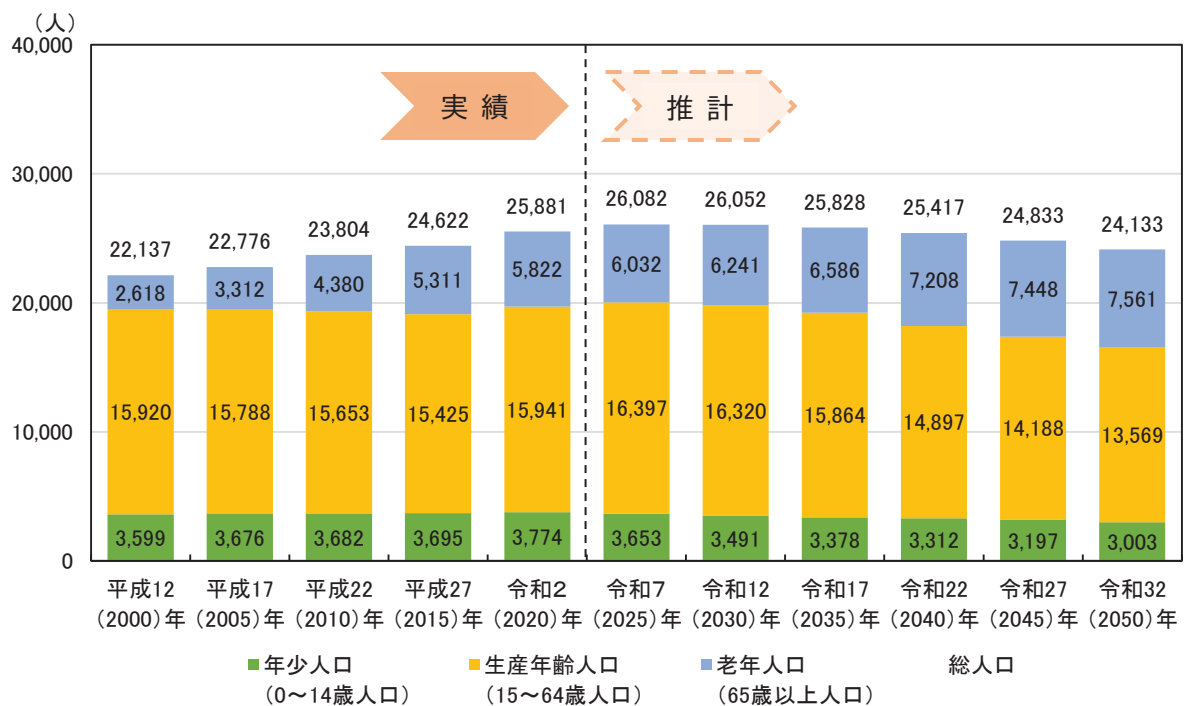
(1)人口の推移

本町の総人口は、平成12(2000)年以降一貫して増加しており、令和2(2020)年には25,881人となり、平成12(2000)年と比較して3,744人(16.9%)増加しています。

年少人口(0～14歳人口)は、平成12(2000)年から令和2(2020)年にかけて微増傾向にあります。老年人口(65歳以上人口)も、平成12(2000)年から令和2(2020)年にかけて増加傾向にあり、この20年で2.22倍の増加となっています。

一方の生産年齢人口(15～64歳人口)は、平成12(2000)年以降は微減傾向で推移してきましたが、平成27(2015)年から令和2(2020)年にかけて増加しています。

■総人口及び年齢3区分別人口の推移・推計



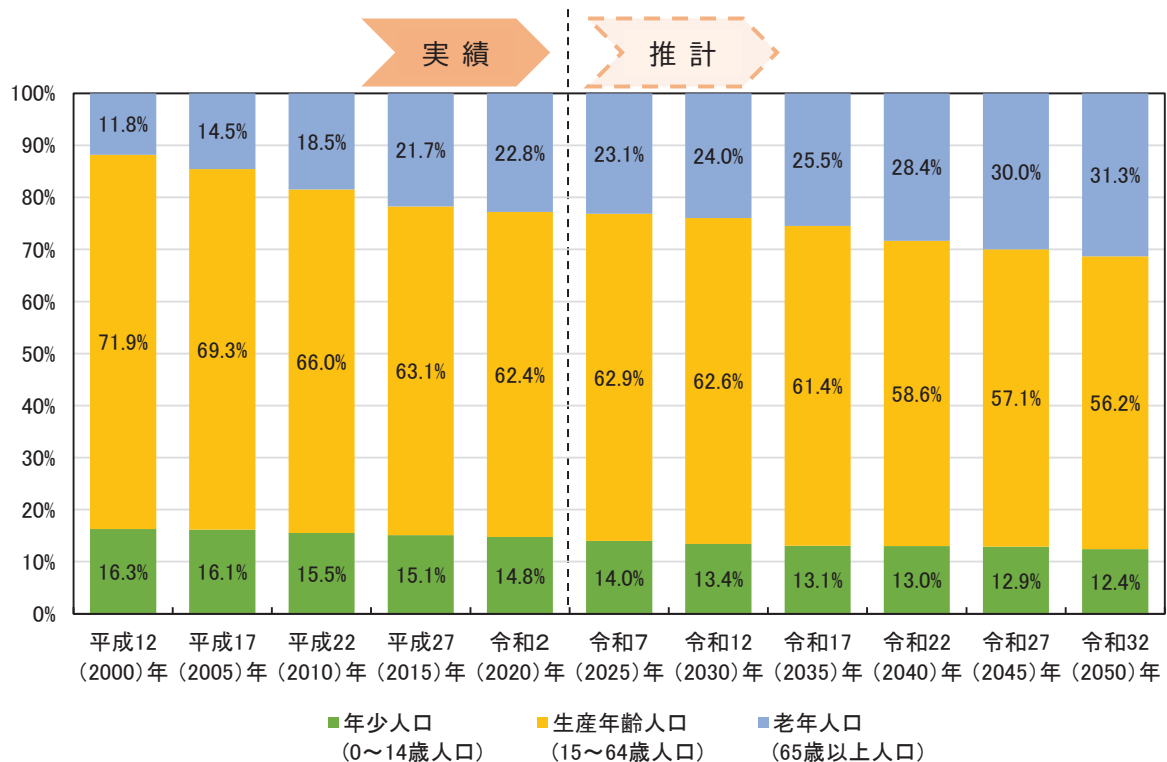
資料：【実績】国勢調査

※実績における総人口には「年齢不詳」を含むため、年齢3区分人口の合計とは一致しない場合がある。

【推計】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

また、年齢3区分別人口割合でみると、平成12（2000）年においては、年少人口（0～14歳人口）の割合が老年人口（65歳以上人口）の割合を上回っていましたが、平成22（2010）年においては、その値が逆転し、以降は推計も含めて高齢者の増加が続くものと見込まれます。

■年齢3区分別人口割合の推移・推計



資料：【実績】国勢調査

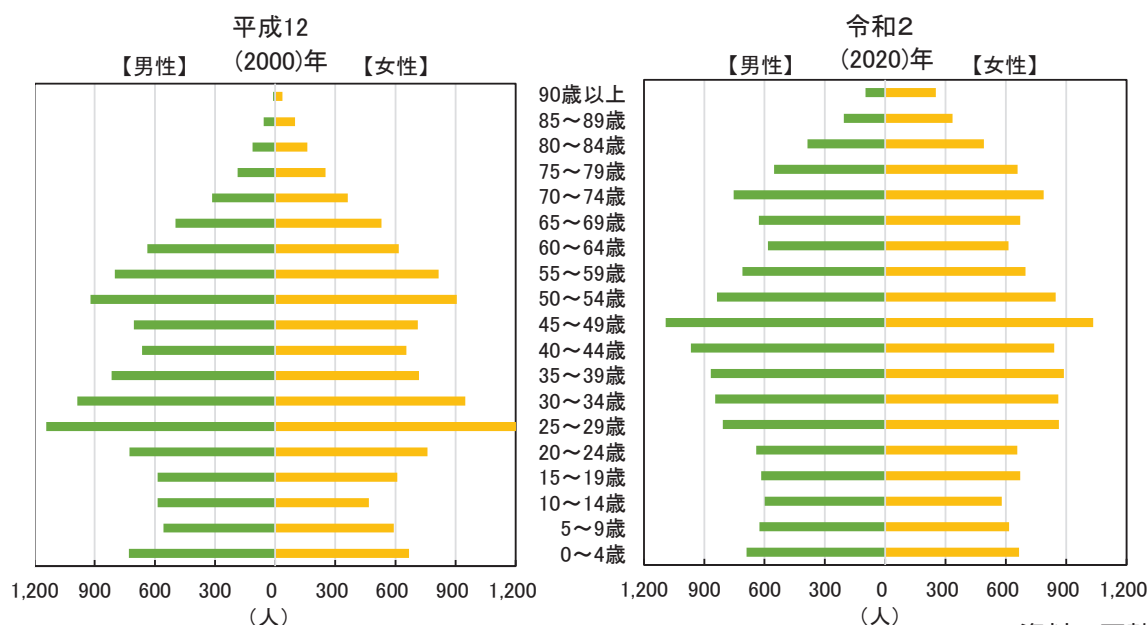
【推計】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

(2)人口構造の変化

平成12(2000)年と令和2(2020)年の人口ピラミッドを比較すると、平成12(2000)年には25～29歳にピークがありましたが、令和2(2020)年におけるピークは45～49歳にあります。一方で、40～44歳より下の年齢層については、20年前と比べて厚くなっていることから、一定層の転入があったことがうかがえます。

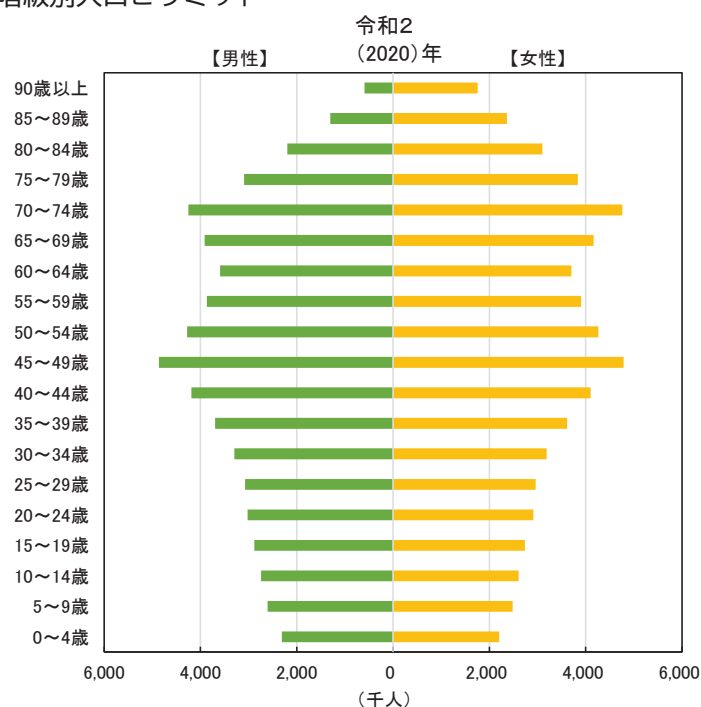
また、国の人口ピラミッドと比較すると、45～49歳にピークがあることは同様ですが、それ以下の年齢層については、本町の方が厚くなっていることがうかがえます。

■本町の性別5歳年齢階級別人口ピラミッドの推移



資料：国勢調査

■国の性別5歳年齢階級別人口ピラミッド



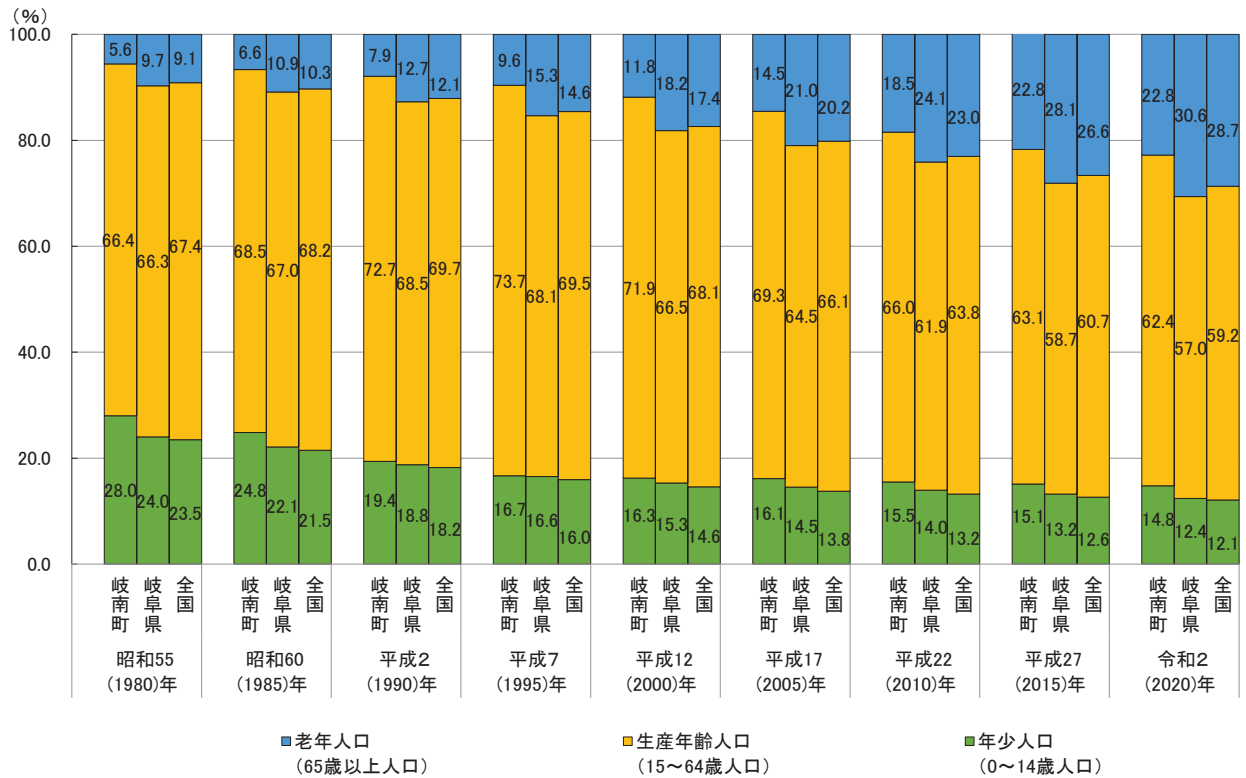
資料：国勢調査

(3) 年齢3区分別人口比率の県及び全国との比較

年齢3区分別人口比率の推移を県及び全国と比較すると、年少人口（0～14 歳人口）ならびに生産年齢人口（15～64 歳人口）の比率については高く、老年人口（65 歳以上人口）の比率については低い水準となっています。

昭和 55（1980）年からの推移をみると、県及び全国よりも少子高齢化の進行はなだらかであることがうかがえます。

■ 年齢3区分別人口比率の推移



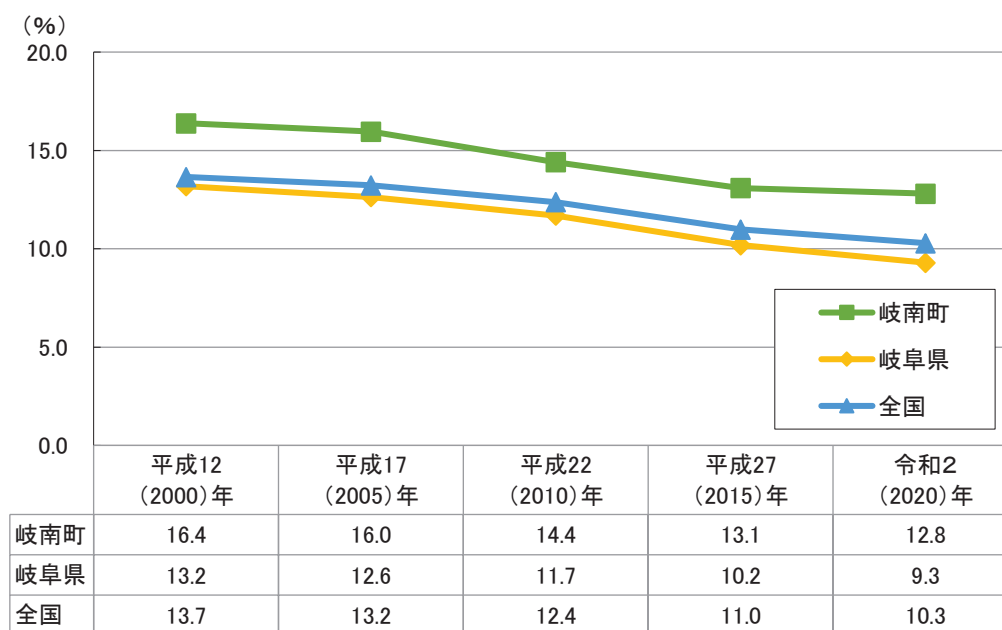
資料：国勢調査

(4)若年女性人口比率の推移

人口の再生産力を示す指標である若年女性人口比率（20～39 歳）については減少傾向で推移しており、この点については全国・県と同様となっていますが、比較的高い水準で推移していることがうかがえます。

また、本町の平成 12（2000）年と令和 2（2020）年の比率の差は 3.6 ポイントとなっています。

■若年女性人口比率（20～39 歳）の推移



資料：国勢調査

(5)自然動態・社会動態の変化

出生数は、平成2（1990）年では256人となっていたましたが、令和2（2020）年では269人となっており、おおむね横ばい傾向にあります。

死亡数は、平成2（1990）年から平成27（2015）年までは一貫して増加していましたが、令和2（2020）年には減少し、182人となっています。

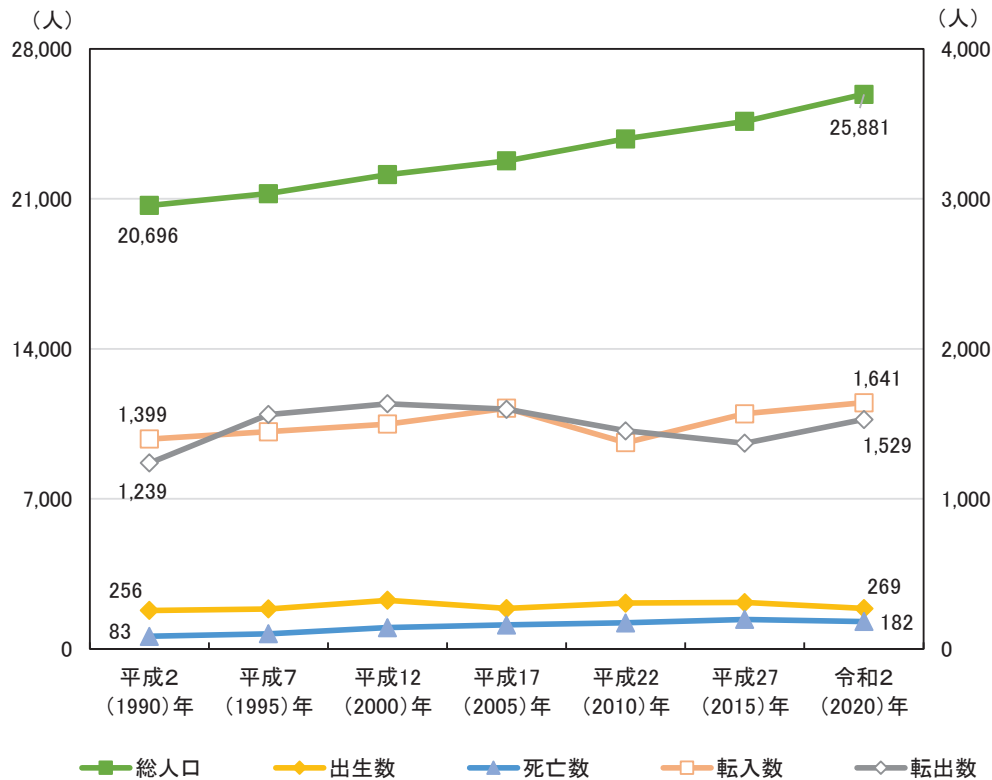
自然増減（出生数－死亡数）は、出生数が死亡数を上回る「自然増」ですが、増加幅は縮小傾向にあります。

転入数は、平成2（1990）年から平成17（2005）年まで増加傾向にありました。その後、平成17（2005）年から平成22（2010）年にかけて減少したものの、平成22（2010）年から令和2（2020）年にかけて増加に転じています。

転出数は、平成2（1990）年から平成12（2000）年まで増加傾向にあり、以降平成27（2015）年まで減少に転じましたが、令和2（2020）年にかけて、再び増加となっています。

社会増減（転入数－転出数）は、平成2（1990）年では社会増（転入数が転出数を上回る状況）で、近年についても社会増となっています。

■出生数、死亡数、転入数及び転出数の推移

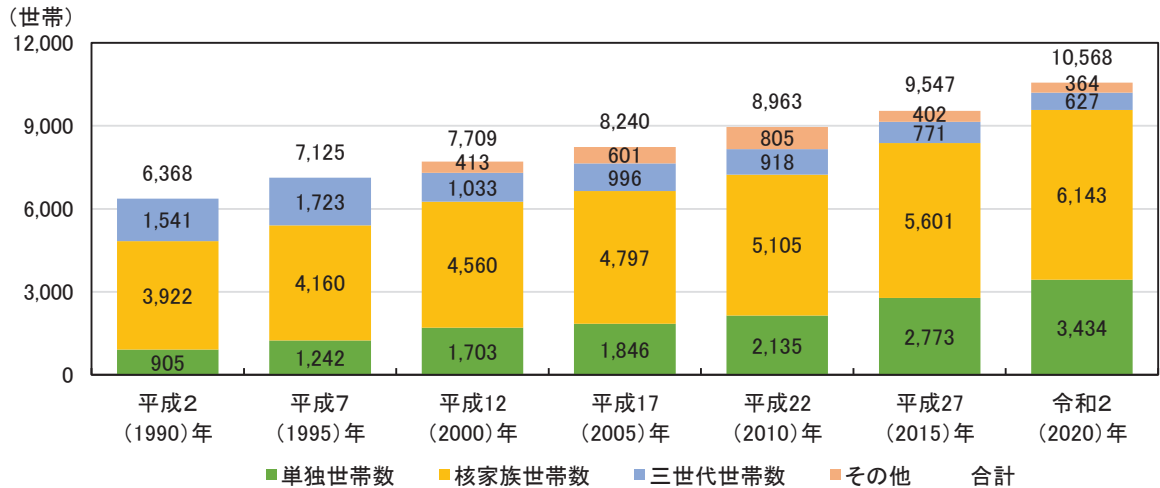


資料：国勢調査

(6)世帯数の推移

本町の家族類型別一般世帯の推移は、単独世帯数及び核家族世帯数は増加傾向にあります。一方で、三世代世帯数は減少傾向にあり、令和2（2020）年には627世帯となっています。

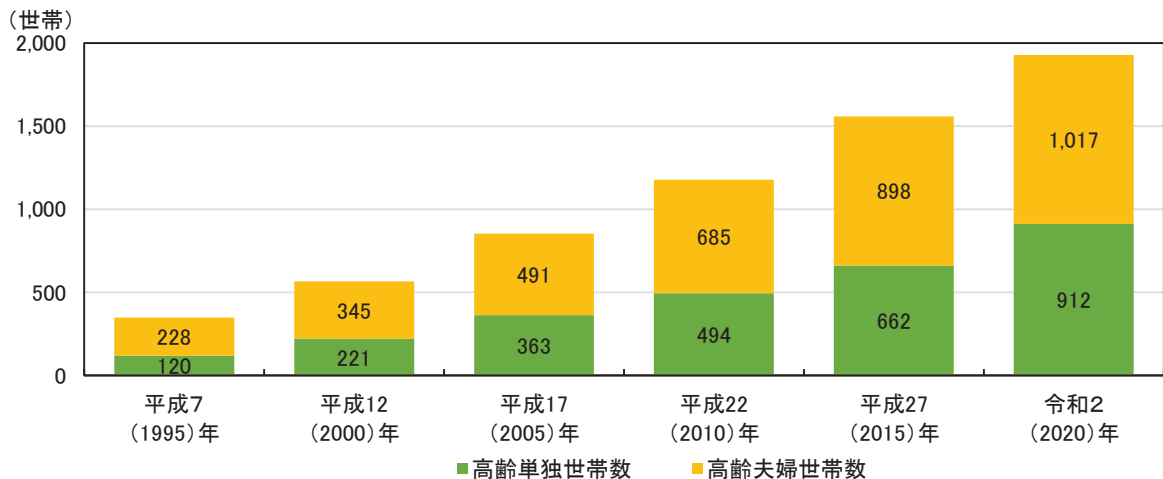
■家族類型別一般世帯の推移



資料：国勢調査

高齢単独世帯数及び高齢夫婦世帯数（夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦 1 組のみの一般世帯）は、ともに増加傾向にあります。令和2（2020）年の高齢単独世帯数（1,017 世帯）は単独世帯数（3,434 世帯）の 29.6%を占めています。

■高齢単独世帯及び高齢夫婦世帯の推移



資料：国勢調査

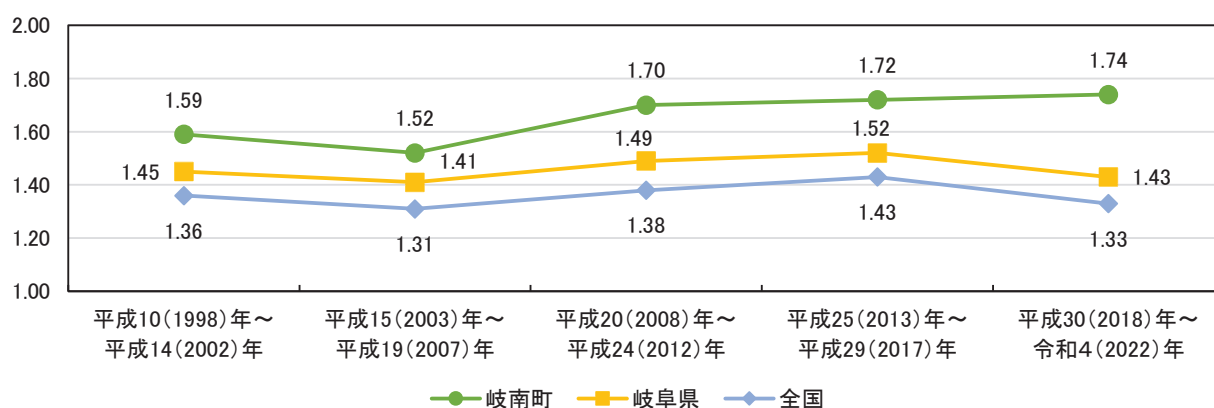
2. 自然動態の状況

(1) 合計特殊出生率の状況

本町の合計特殊出生率は、全国や岐阜県よりも高い水準で推移しています。しかし、平成 30（2018）年～令和 4（2022）年の合計特殊出生率は 1.74 と、人口を維持することができる水準である 2.07 を下回っています。

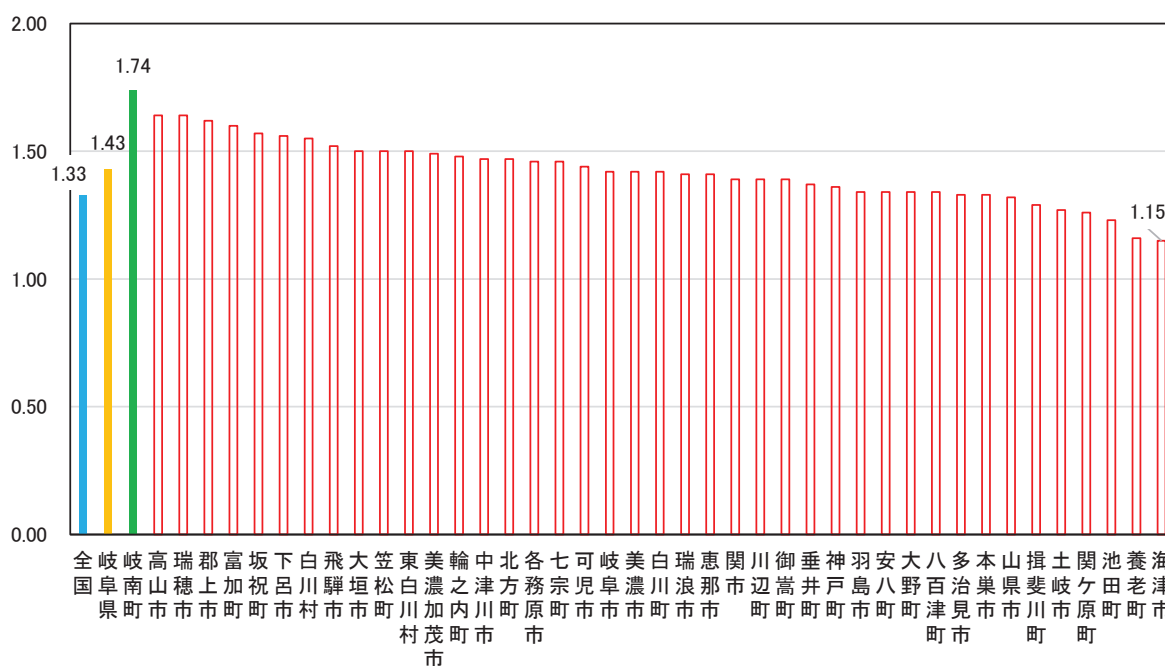
平成 30（2018）年～令和 4（2022）年の合計特殊出生率について、岐阜県内の他の市町村と比較すると、最も高くなっています。

■ 合計特殊出生率の推移



資料：人口動態保健所・市区町村別統計

■ 合計特殊出生率の比較

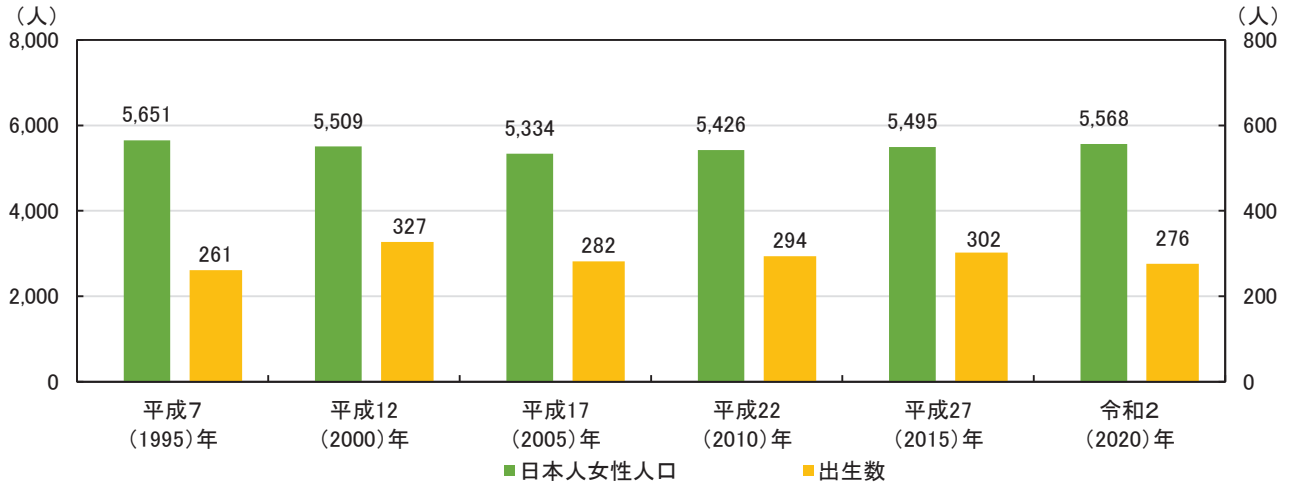


資料：人口動態保健所・市区町村別統計

(2)15～49 歳の女性人口の状況

15～49 歳の女性人口の推移は、平成 17（2005）年までは減少傾向にありましたが、その後、増加に転じています。また、15～49 歳の女性人口の構成比を岐阜県と比較すると、20～39 歳の構成比が 6.3 ポイント高くなっています。

■15～49 歳の女性人口と出生数の推移（外国人を除く）



資料：国勢調査

■15～49 歳の女性人口の構成比の比較（外国人を除く）

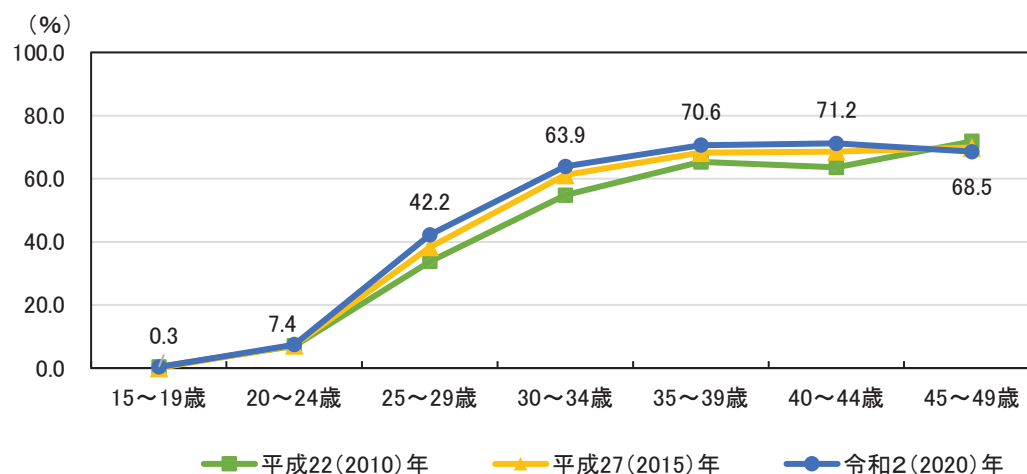
	岐南町		岐阜県	
	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比
15～49 歳人口	5,568	100.0%	342,265	100.0%
15～19 歳	662	11.9%	45,115	13.2%
20～24 歳	623	11.2%	39,802	11.6%
25～29 歳	819	14.7%	37,154	10.9%
30～34 歳	799	14.3%	41,465	12.1%
35～39 歳	840	15.1%	49,185	14.4%
40～44 歳	811	14.6%	58,322	17.0%
45～49 歳	1,014	18.2%	71,222	20.8%
20～39 歳【再掲】	3,081	55.3%	167,606	49.0%

資料：国勢調査（令和2（2020）年）

(3) 15～49 歳における有配偶率の状況

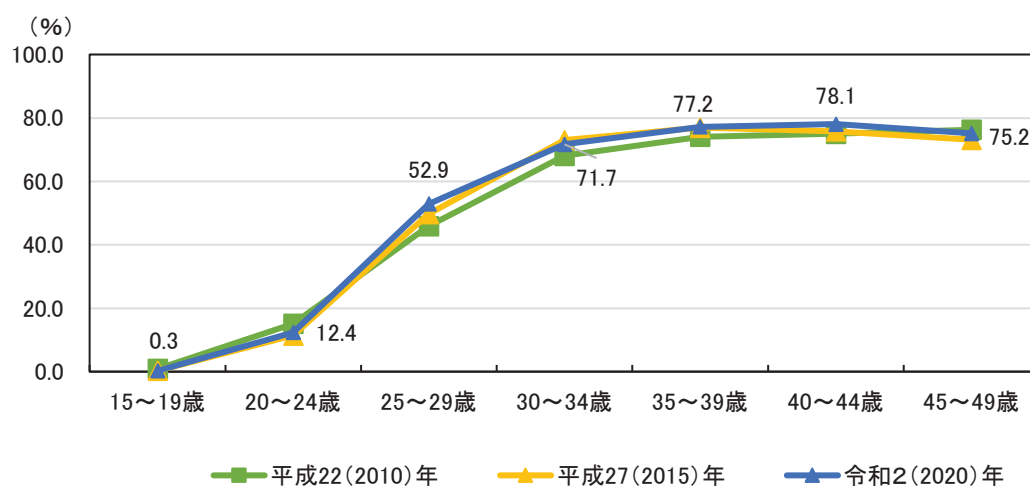
令和2（2020）年の本町における性別・年齢階級別有配偶率は、平成27（2015）年と比較すると、男性では15～44歳で、女性では15～19歳及び30～34歳を除いた年齢層で、それぞれ増加しています。

■性別・年齢階級別有配偶率（男性）の推移（外国人を除く）



資料：国勢調査

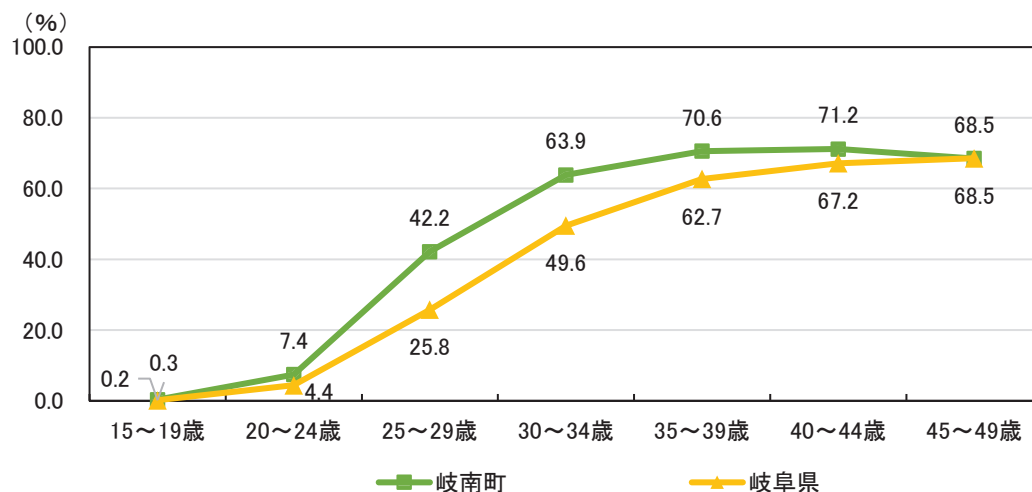
■性別・年齢階級別有配偶率（女性）の推移（外国人を除く）



資料：国勢調査

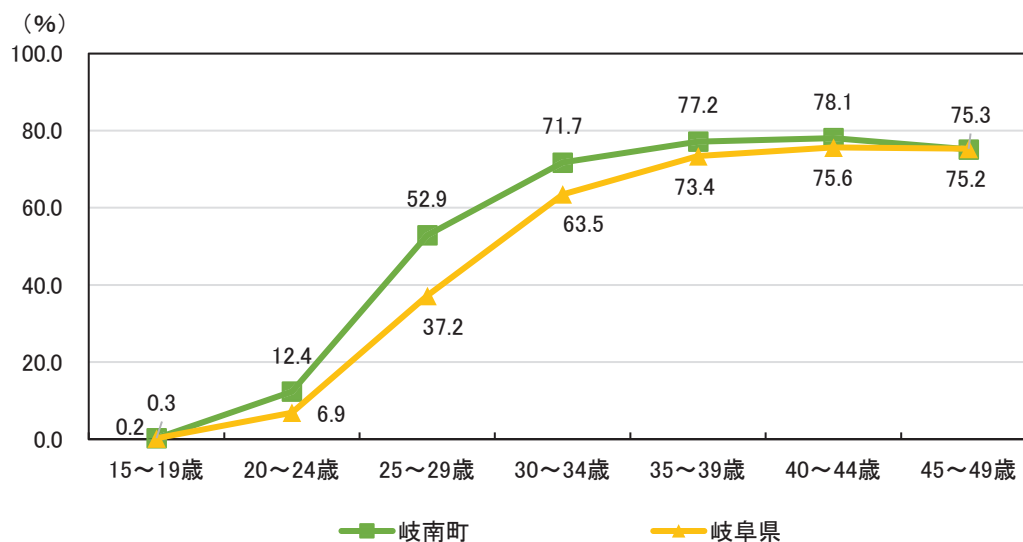
本町の性別・年齢階級別有配偶率は、岐阜県と比較するとおおむね高い水準にあり、特に、男女ともに 25～29 歳、30～34 歳で大幅に上回っています。

■性別・年齢階級別有配偶率（男性）の比較（外国人を除く）



資料：国勢調査（令和2（2020）年）

■性別・年齢階級別有配偶率（女性）の比較（外国人を除く）

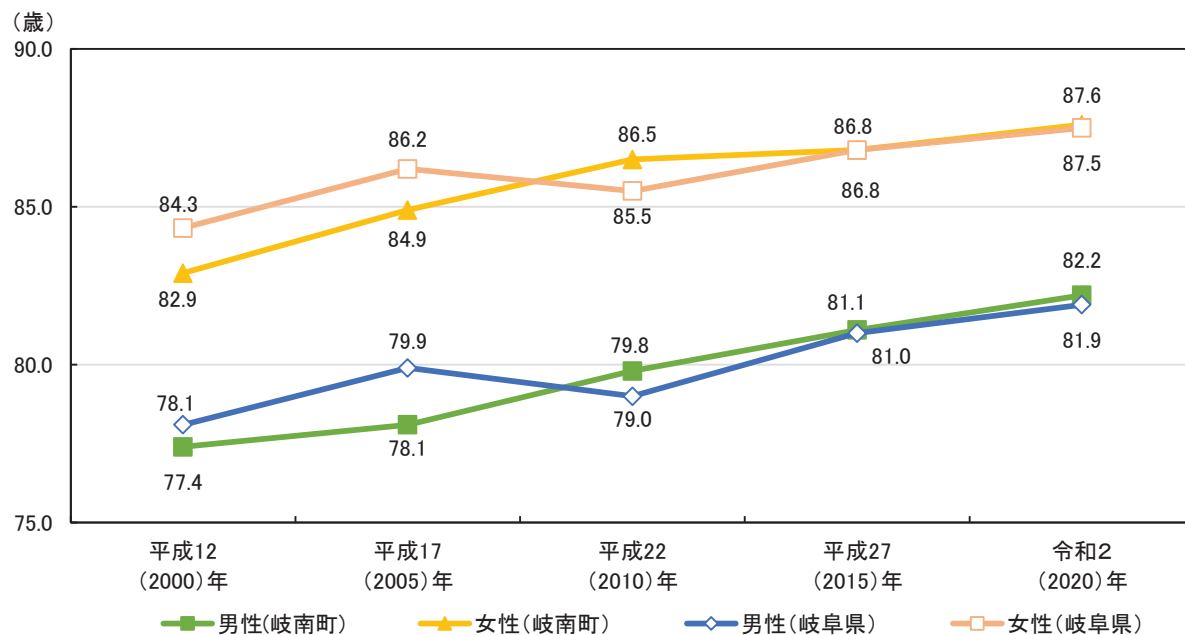


資料：国勢調査（令和2（2020）年）

(4)平均寿命の状況

本町の平均寿命は一貫して伸び続けており、令和2（2020）年では男性 82.2 歳、女性 87.6 歳となっています。男女ともに岐阜県の平均寿命と比べると、大きな差はありません。

■平均寿命の推移と比較



資料：市町村別生命表

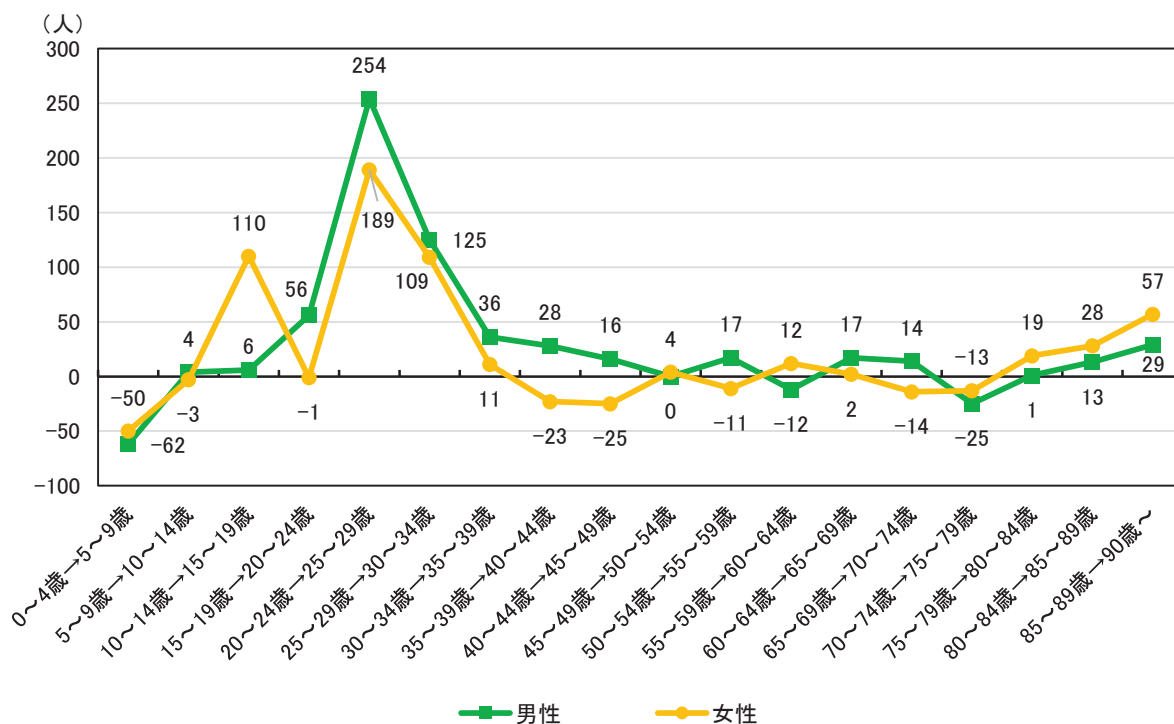
3. 社会動態の状況

(1) 人口移動の状況

性別・年齢階級別の人口移動の状況は、本町は男女ともに20歳代後半、30歳代前半にかけての転入超過が大きくなっており、女性は10歳代後半にかけても転入超過が大きくなっています。

一方で、男性の60歳代前半、70歳代後半、女性の40歳代前半から後半、50歳代後半、70歳代前半から後半にかけては転出超過となっています。

■性別・年齢階級別の純移動数の状況（平成27（2015）年→令和2（2020）年）

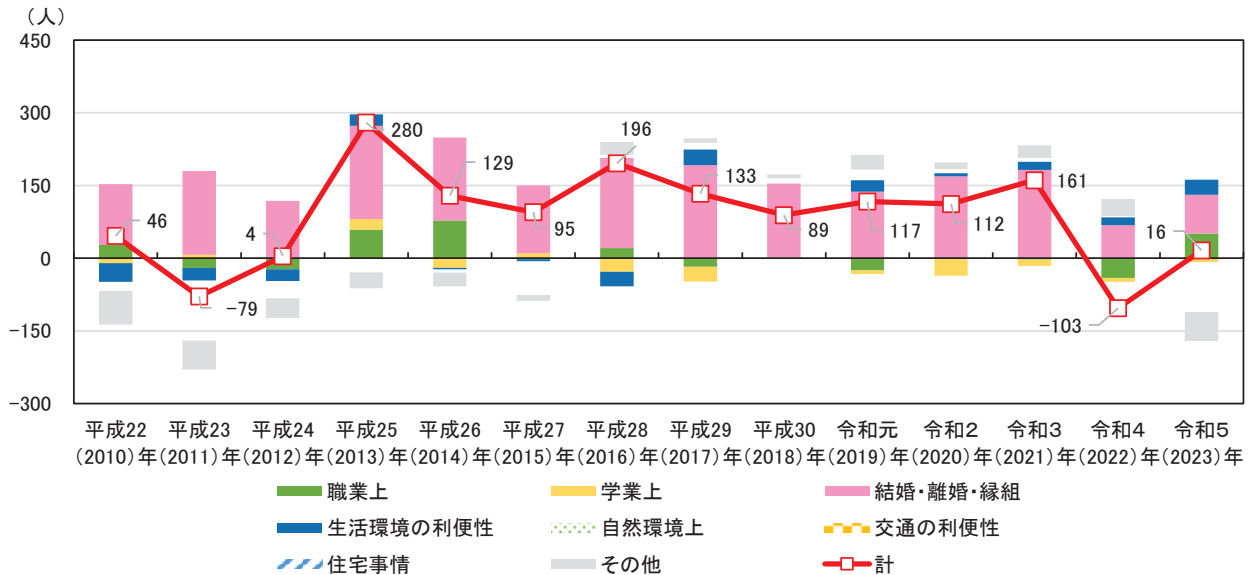


資料：「国勢調査」、「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

(2)移動理由別転入転出差の推移

移動理由別転入転出差の推移は、「結婚・離婚・縁組」を理由とした転入超過が続いている一方、「住宅事情」を理由とした転出超過がみられます。

■移動理由別転入転出差の推移

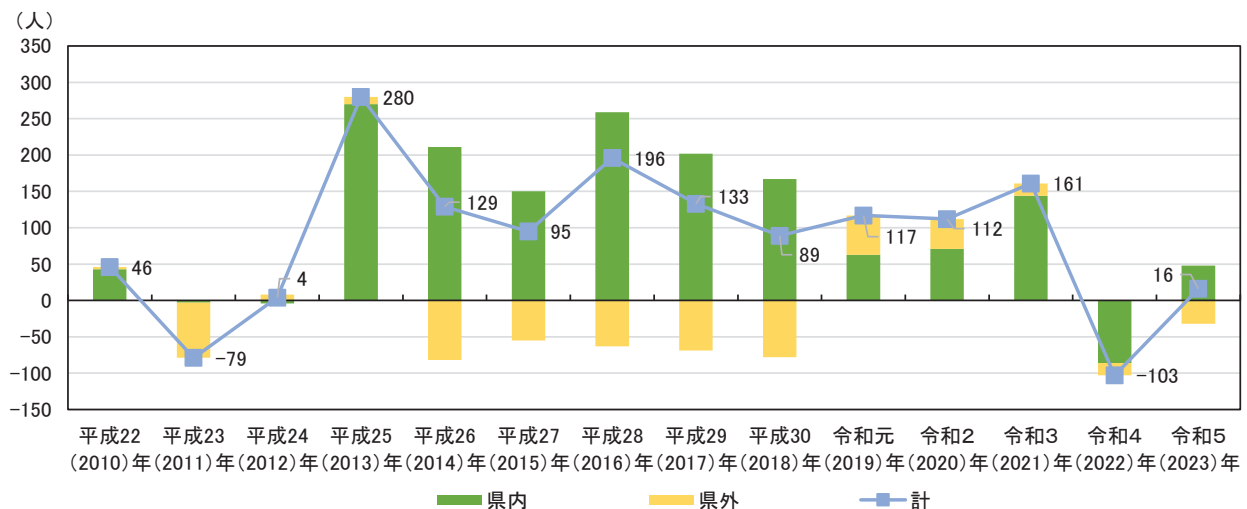


資料：岐阜県人口動態統計調査

(3)県内・県外別転入転出差の推移

県内・県外別転入転出差の推移は、県内・県外等別の人口移動は年ごとに転入転出の状況が異なり、令和3（2021）年までは県内からの転入超過が続いていましたが、令和4（2022）年には転出超過になりました。

■県内・県外別転入転出差の推移



資料：岐阜県人口動態統計調査

(4)市町村別転入転出差の推移

市町村別移動者の推移は、県内では、2019（令和元）年以降岐阜市との間で転入者・転出者ともに370人～450人程度、各務原市との間で100～150人程度の移動者がそれぞれみられます。また、県外では、愛知県との間で250人～330人程度の移動者がみられます。

転入転出差をみると、2023（令和5）年は各務原市との間で転入超過となっており、県外では愛知県に対して転入超過、東京都に対して転出超過となっています。

■市町村別転入転出差の推移

（単位：人）

	令和元(2019)年			令和2(2020)年			令和3(2021)年		
	転入	転出	転入 転出差	転入	転出	転入 転出差	転入	転出	転入 転出差
総計	1,646	1,529	117	1,641	1,529	112	1,669	1,508	161
県内合計	930	867	63	969	898	71	1,022	878	144
岐阜市	388	387	1	431	456	-25	443	425	18
各務原市	149	154	-5	129	121	8	154	129	25
笠松町	108	89	19	95	95	0	103	54	49
その他県内	285	237	48	314	226	88	322	270	52
県外合計	716	662	54	672	631	41	647	630	17
愛知県	326	270	56	302	251	51	332	276	56
東京都	23	40	-17	21	48	-27	33	38	-5
神奈川県	18	19	-1	15	21	-6	19	18	1
大阪府	25	22	3	15	22	-7	21	25	-4
三重県	24	26	-2	30	13	17	21	22	-1
その他道府県	191	163	28	166	153	13	176	149	27
外国	94	103	-9	97	78	19	39	71	-32
不詳	15	19	-4	26	45	-19	6	31	-25

	令和4(2022)年			令和5(2023)年		
	転入	転出	転入 転出差	転入	転出	転入 転出差
総計	1,470	1,573	-103	1,484	1,468	16
県内合計	839	925	-86	843	795	48
岐阜市	376	436	-60	366	366	0
各務原市	104	125	-21	127	107	20
笠松町	94	101	-7	81	90	-9
その他県内	265	263	2	269	232	37
県外合計	631	648	-17	641	673	-32
愛知県	275	255	20	283	249	34
東京都	25	38	-13	24	50	-26
神奈川県	11	24	-13	15	18	-3
大阪府	23	21	2	15	29	-14
三重県	28	25	3	21	30	-9
その他道府県	157	167	-10	160	163	-3
外国	97	54	43	104	100	4
不詳	15	64	-49	19	34	-15

資料：岐阜県人口動態統計調査

(5)市町村別移動者の構成

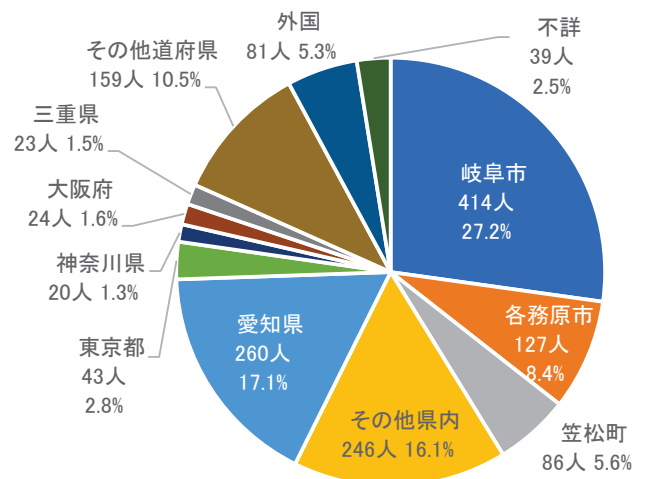
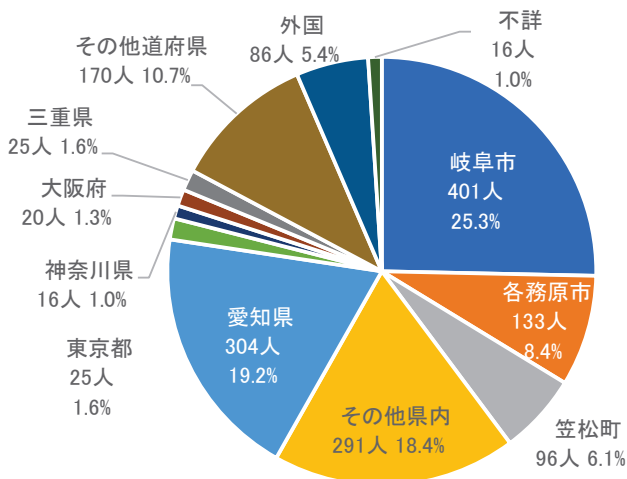
令和元（2019）年～令和5（2023）年平均の移動者の構成比をみたところ、転入者、転出者とも県内市町村との移動が約6割で、岐阜市、各務原市、笠松町など近隣市町間の移動が多い状況です。

■主な市町村別の移動者の構成比 (単位：人)

	令和元(2019)年～令和5(2023)年平均			
	転入	構成比	転出	構成比
総計	1,582	100.0%	1,521	100.0%
県内合計	921	58.2%	873	57.4%
岐阜市	401	25.3%	414	27.2%
各務原市	133	8.4%	127	8.4%
笠松町	96	6.1%	86	5.6%
その他県内	291	18.4%	246	16.1%
県外合計	661	41.8%	649	42.6%
愛知県	304	19.2%	260	17.1%
東京都	25	1.6%	43	2.8%
神奈川県	16	1.0%	20	1.3%
大阪府	20	1.3%	24	1.6%
三重県	25	1.6%	23	1.5%
その他道府県	170	10.7%	159	10.5%
外国	86	5.4%	81	5.3%
不詳	16	1.0%	39	2.5%

資料：岐阜県人口動態統計調査

■転入者の構成（左）・転出者の構成（右）

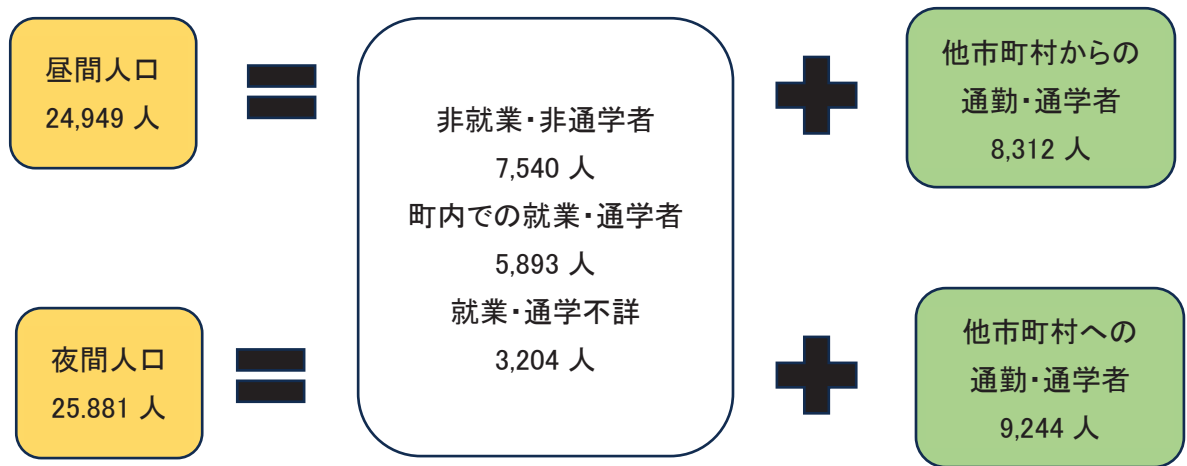


資料：岐阜県人口動態統計調査

(6) 昼夜間人口の状況

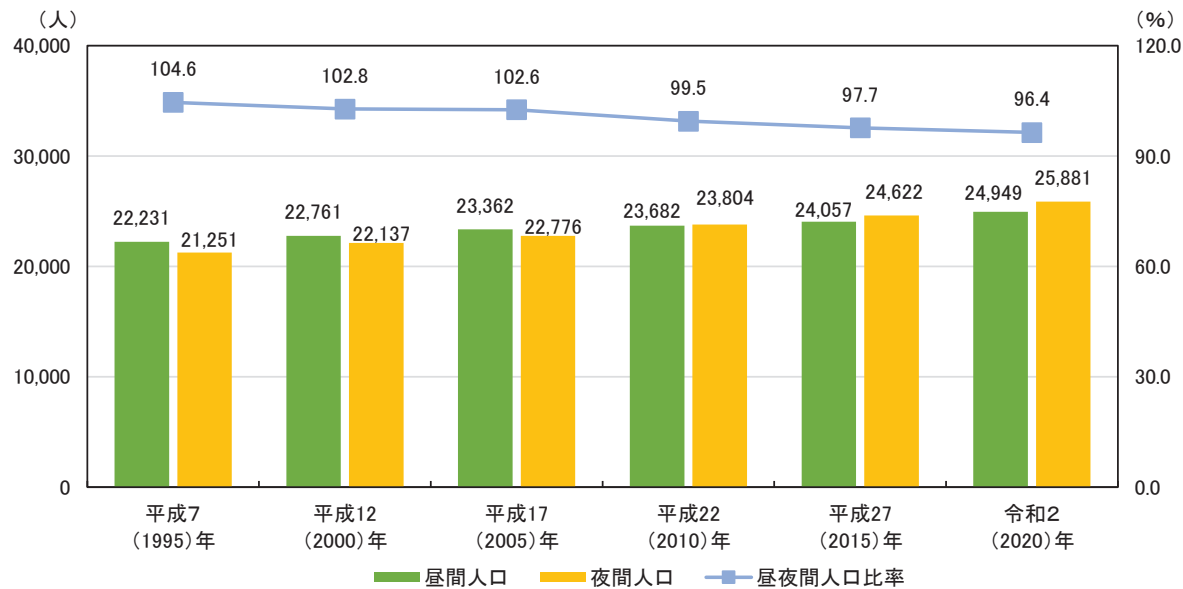
昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率の推移は、昼間人口と夜間人口ともに増加しているものの、平成 22（2010）年以降、昼間人口より夜間人口が多いため、昼夜間人口比率は減少傾向にあり 100%を下回っています。

■ 昼夜間人口の状況



資料：国勢調査（令和 2（2020）年）

■ 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率の推移



資料：国勢調査

(7)通勤・通学者の状況

他市町村に住み、本町に通勤・通学している人（15歳以上）は、令和2（2020）年で8,238人であり、そのうち県内の他市町村からの通勤・通学者は87.9%を占めています。また、県外からの通勤・通学者（15歳以上）は愛知県からが最も多く、このうち、一宮市が愛知県全体の56.9%を占めています。

一方で、本町に住み、他市町村へ通勤・通学している人（15歳以上）は、令和2（2020）年で9,119人であり、県内の他市町村への通勤・通学者は73.3%を占めています。また、県外への通勤・通学者（15歳以上）は、愛知県が最も多く、このうち、名古屋市が最多で、愛知県全体の44.5%を占めています。

■他市町村からの通勤・通学者（15歳以上）

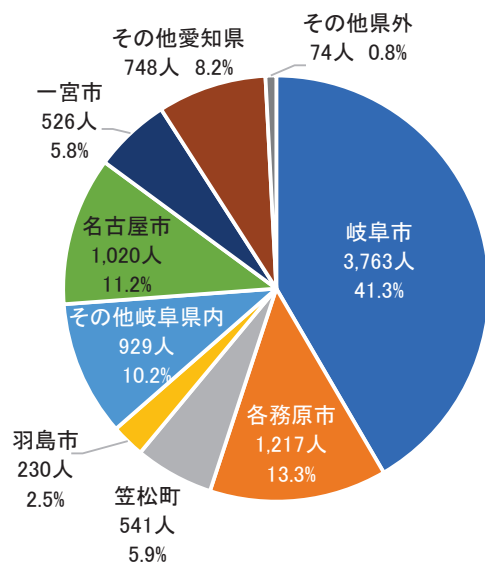
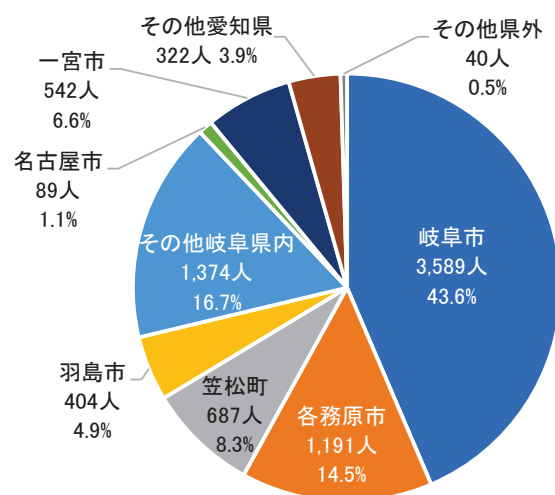
	総数		就業者		通学者	
	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比
他市区町村からの通勤・通学者	8,238	100.0%	8,071	100.0%	167	100.0%
県内	7,245	87.9%	7,091	87.9%	154	92.2%
岐阜市	3,589	43.6%	3,536	43.8%	53	31.7%
各務原市	1,191	14.5%	1,155	14.3%	36	21.6%
笠松町	687	8.3%	682	8.5%	5	3.0%
羽島市	404	4.9%	391	4.8%	19	11.4%
その他岐阜県内	1,374	16.7%	1,327	16.4%	13	7.8%
県外	993	12.1%	980	12.1%	13	7.8%
愛知県	953	11.6%	940	11.6%	13	7.8%
名古屋市	89	1.1%	87	1.1%	2	1.2%
一宮市	542	6.6%	541	6.7%	1	0.6%
その他愛知県	322	3.9%	312	3.9%	10	6.0%
その他県外	40	0.5%	40	0.5%	0	0.0%

■他市町村への通勤・通学者（15歳以上）

	総数		就業者		通学者	
	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比
他市区町村への通勤・通学者	9,119	100.0%	8,269	100.0%	850	100.0%
県内	6,680	73.3%	6,040	73.0%	640	75.3%
岐阜市	3,763	41.3%	3,308	40.0%	455	53.5%
各務原市	1,217	13.3%	1,138	13.8%	79	9.3%
笠松町	541	5.9%	492	5.9%	49	5.8%
羽島市	230	2.5%	211	2.6%	19	2.2%
その他岐阜県内	929	10.2%	891	10.8%	38	4.5%
県外	2,368	26.0%	2,176	26.3%	192	22.6%
愛知県	2,294	25.2%	2,122	25.7%	172	20.2%
名古屋市	1,020	11.2%	897	10.8%	123	14.5%
一宮市	526	5.8%	524	6.3%	2	0.2%
その他愛知県	748	8.2%	701	8.5%	47	5.5%
その他県外	74	0.8%	54	0.7%	20	2.4%

資料：国勢調査（令和2（2020）年）

■ 他市町村からの通勤・通学者（左）・他市町村への通勤・通学者（右）



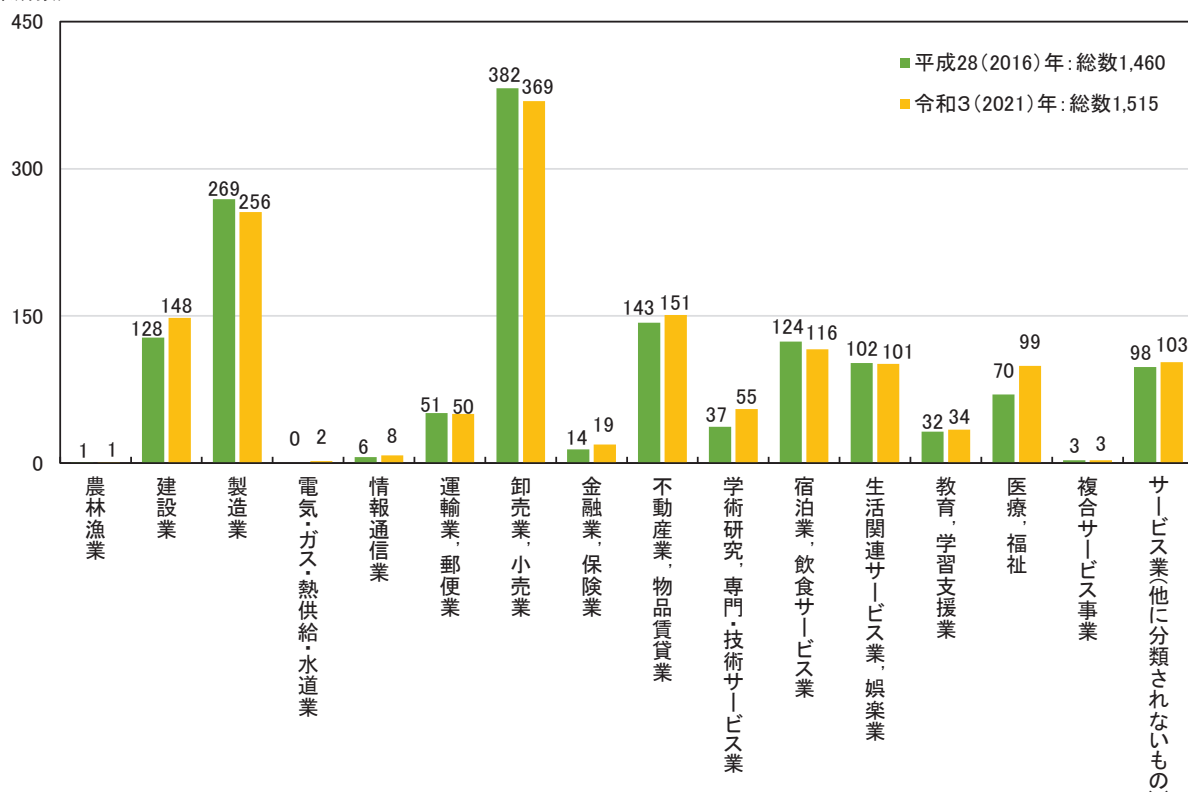
資料：国勢調査（令和2（2020）年）

(8)産業の状況

本町の事業所数を平成 28 (2016) 年と令和 3 (2021) 年で比較すると、55 事業所が増加しています。産業別にみると、「製造業」「卸売業・小売業」などが減少している一方、「建設業」「学術研究、専門・技術サービス業」「医療・福祉」などが増加しています。

■産業別事業所数の推移

(事業所数)

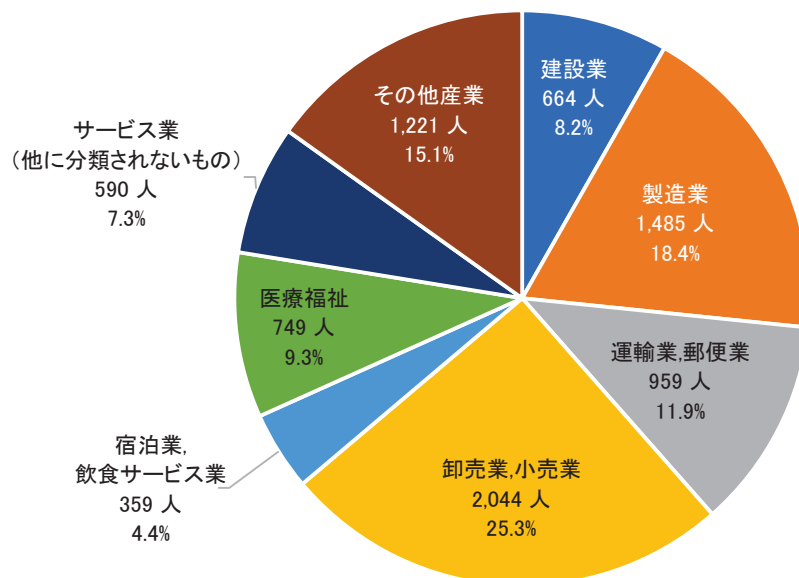


資料：経済センサス活動調査（平成 28 (2016) 年・令和 3 (2021) 年）

(9)他市町村からの通勤者が従事している町内の主要な産業の状況

他市町村からの通勤者（15 歳以上）が従事している主要な産業をみると、「卸売業、小売業」の割合が 25.3%と最も高く、次いで「製造業」が 18.4%となっています。

■他市町村からの通勤者（15 歳以上）が従事している町内の主要な産業



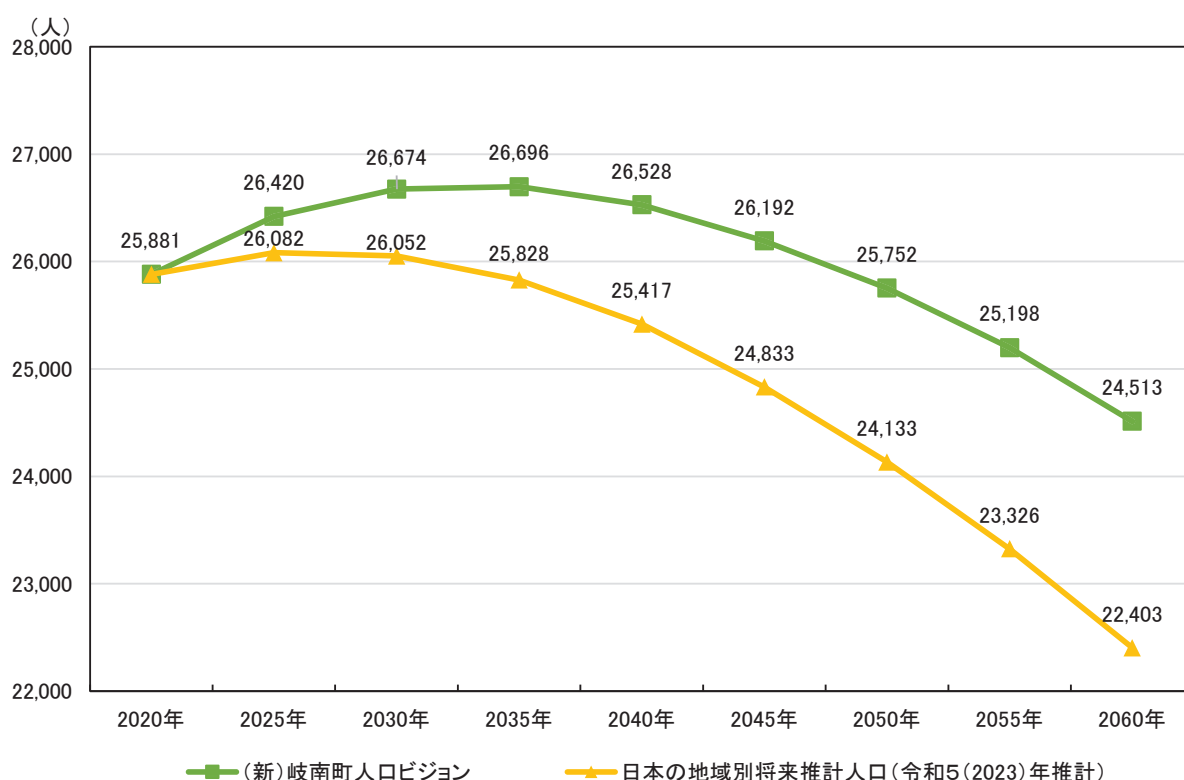
資料：：国勢調査（令和2（2020）年）

第 3 章 人口の将来展望

1. 将来展望の目標と根拠

人口の将来展望については、社人研による「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」をふまえて、本戦略における施策効果を見込んで、令和 42（2060）年における目標人口を 24,500 人程度と定めます。

■（新）岐南町人口ビジョン



資料：国提供人口推計用ワークシート（令和6（2024）年6月版）

■（新）岐南町人口ビジョンの考え方

目標人口	令和 42(2060) 年に 24,500 人程度の人口規模を維持
自然増減に関する仮定	社人研による「日本の地域別将来推計人口（令和5(2023)年推計）」をベースに、合計特殊出生率が現状における最新の数値 1.74 を維持することを見込む
社会増減に関する仮定	本戦略に基づく施策効果として、転出数 0.5%の減少として転出が抑制されるものと見込む。なお、転入については現状と同程度が維持されるものと見込む。

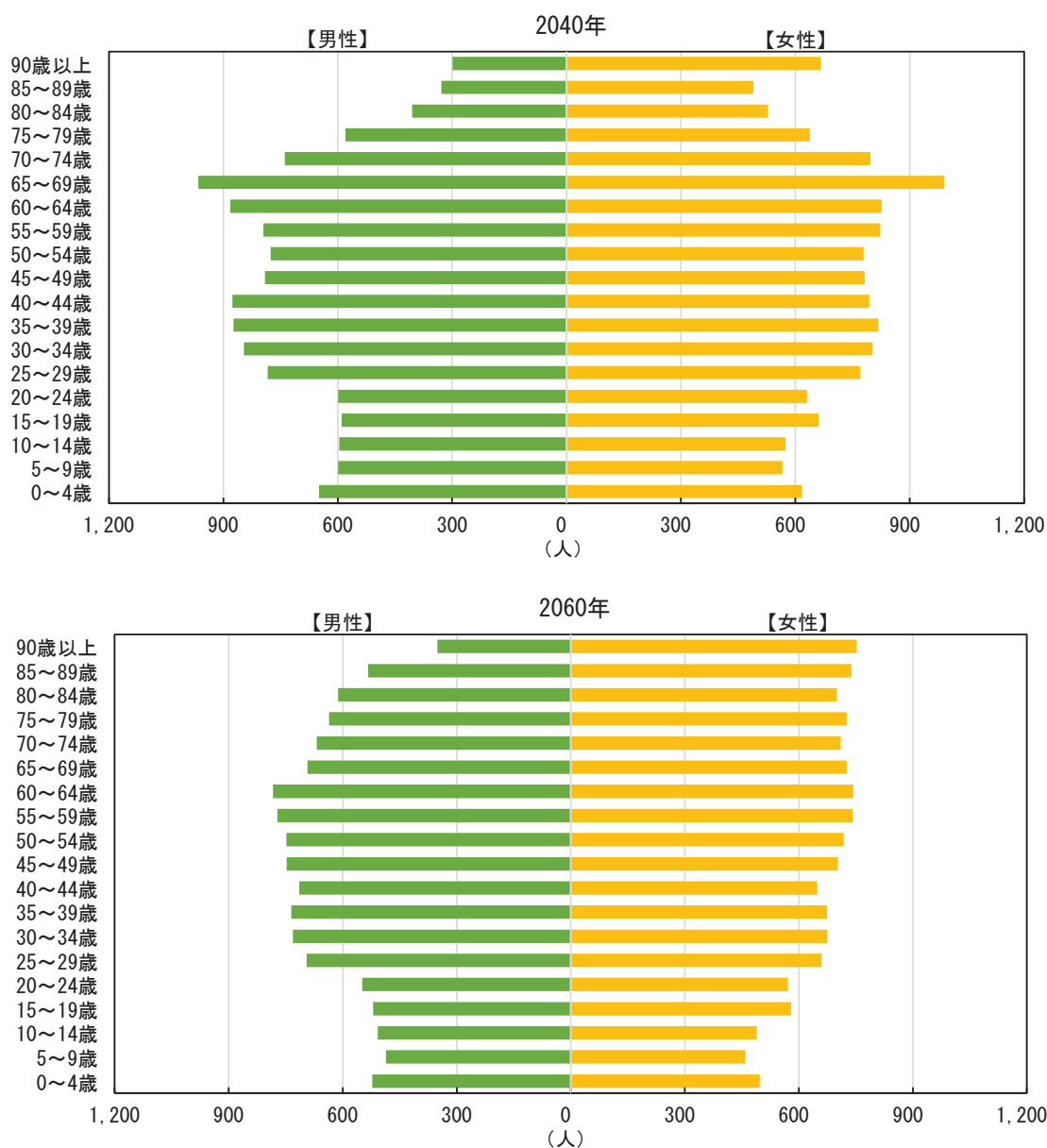
2. 目標人口達成時の人口構造

本町の目標人口達成時の人口構造をみると、令和 22（2040）年における人口ピラミッドの型は「星型」、令和 42（2060）年では「つりがね型」となっています。

令和 22（2040）年から令和 42（2060）年の 20 年にかけて、後期高齢者人口（75 歳以上人口）は増加する一方、75 歳未満の階級層についてはいずれにおいても減少の見込みとなります。

また、年齢階級別でみると、令和 22（2040）年においては 65～69 歳の階級層が最も高く、次いで 60～64 歳の階級層となっていますが、令和 42（2060）年では、男性で 60～64 歳、女性で 90 歳以上が最も高く、次いで男性で 55～59 歳、女性で 60～64 歳となっています。

■本町の目標人口達成時の性別 5 歳年齢階級別人口ピラミッド



資料：国提供人口推計用ワークシート（令和 6（2024）年 6 月版）